校長雑感　Soundscape　松本蟻ケ崎高校
第３５号
令和５年１２月１３日

「楽園」を考える　全国高等学校文化連盟研究大会　徳島大会に参加して②

写真家　三好和義さん講演　「南の島モルディブ」

「我々はどこから来たのか　我々は何者か　我々はどこへ行くのか」 ポール・ゴーギャン（大塚国際美術館にて）

原寸大「ゲルニカ」ピカソ（大塚国際美術館にて）

全国高文連研究大会の講演会は徳島出身の写真家三好和義さんの「阿波から世界へ～写真で旅した50年」でした。三好さんは全国高文連写真専門部の審査員もされている方で「楽園」をテーマに世界を回り撮影しています（次年は諏訪を撮影したいとのこと）。色鮮やかでみなぎるエネルギーを持つ作品の数々に圧倒されました。中学生で写真に出逢い50年、彼が捉えた「楽園」は生命みなぎるものでした。美術家ポール・ゴーギャンの作品に「我々はどこから来たのか　我々は何者か　我々はどこへ行くのか」があります。これは彼の「楽園」であったタヒチ滞在中に孤独・病気との闘い・娘の死により自殺を決意して描いた哲学的作品。原始の楽園を追われて文明社会へ進む人間の生と死を問いかける宗教画に匹敵する作品です。タヒチはゴーギャンにとって圧倒的な楽園でしたが安住できず、エデンの園を侵してしまった部外者として自らの罪を贖うためにこの作品を描いたのではないかとも言われています。鳴門海峡に近い「大塚国際美術館」を訪問しました。ここは、陶板に描かれた名画のレプリカが原寸大で1000余点展示されている美術館です。この場でこのゴーギャンの原寸作品に出逢い、奇しくも「楽園」とは何かを考えた時間でした。

【7つの「ひまわり」】

この大塚美術館には、世界に7作品ある花瓶に入ったゴッホの7つの「ひまわり」が1つの区間に展示されており、ここならではの風景に感慨ひとしおでした